

平和とは何か

1 対象学年 中学3年生

2 ねらい

昨今、生徒たちは便利で豊かな日常生活を送っているといえる。次々に新しい製品があふれ、使えるものでも必要でなければ惜しげもなく捨てる生活も広がっている。本学級の生徒も物を粗末に扱ったり、給食の残飯が多かったりする。また、家庭環境は、祖父母と別々で暮らしている家庭が多く、核家族の家庭が多い。そのため、戦争に関する話を祖父母から聞く経験が少ない。テレビやニュース、書籍や映画などで戦時中の様子を知っているものの、自分と関係のないことであると興味・関心は低い。

そこで本実践では、平和であることが当たり前となっている現在の日本にあって、過去の戦争の様子を学び、戦争の悲惨さ、恐ろしさを感じさせたい。その上で平和の大切さを改めて感じさせたい。また、戦時中の生活の様子を知ることで、現在の生活が衣食住においてどれほど恵まれた状況であるのかを感じさせたい。

3 指導の流れ

(1) 準備

焼け跡に立つ虹「つらい青春時代 (P125～)」 かたりべDVD (2016年版) 戦時中の食事

- ・ 読み物資料「焼け跡に立つ虹」
つらい戦争時代 (P125～P130)
題材「焼け跡の立つ虹」は、愛知県の戦争体験者が平和を願い・愛し・求める声を綴った戦争体験記録である。生徒が知っている地域の体験記が掲載されている。そのため生徒の身近な地域が戦争の被害に遭っていることを知り、戦争の悲惨さを知ること、平和への思いを深めてくれるであろう。また、戦時中の生活がわかる記述が多く、当時の生活困窮がイメージしやすい。
- ・ かたりべDVD (2016年版)
広島原爆当時の様子を語った映像資料である。当時の生活の様子や原爆が投下された直後の様子がかたりべが語る場面を扱う。戦争を経験した方が語っている映像であり、実際に体験したことを語る姿は、生徒の目を引く映像である。

(2) 指導計画

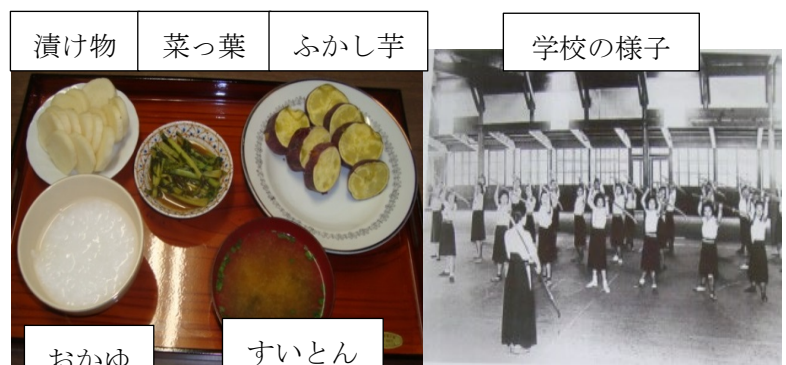
時間	学習活動	指導上の留意点
3分	1 幸せを感じる瞬間は何かを考える。 ・ 友達と遊んでいるとき。 ・ 美味しいステーキを食べているとき。 ・ お風呂に入っているときが一番幸せ。 ・ 家でゲームをするとき。	○ 活動3で戦争当時の様子と現在送っている生活の差についてより考えることができるように、今の自分が幸せを感じる瞬間を考えさせる。

12分	2 焼け跡に立つ虹「つらい青春時代」について読み、戦時中の生活について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戦時中の生活の様子を理解できるように、当時使っていた日用品や実際に食べていた料理を提示する。 ○ 常に空襲に対する不安があったことが理解できるように、サイレンの音や爆発音を聞かせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦争中は食べ物がなくてひもじい思いをしたんだね。 ・ 大根とさつまいもを食べていたのか。 ・ このサイレンと爆発音が毎日のようにあったなんて気が狂いそうだね。 ・ 自分だったら当時の状況は嫌だな。 	
20分	3 かたりべDVDを視聴し、当時の生活と現代の生活を比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戦争時の状況を理解できるように、映像資料を見せてイメージをもたせる。 ○ 当時の生活と現代の生活が比較しやすくするために、構造的な板書をする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水や食べ物が当たり前のように手に入る。 ・ 病気やケガをすると治療してもらえる。 ・ 友達と笑顔で遊べる。 ・ やりたいことが当たり前のようにできること。 ・ 安心して寝ることができる。 	
10分	4 平和とは何か単文を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他者の意見を視覚的に共有することができるように、生徒が書いた平和の単文を黒板に掲示する。 ○ 平和とは何かを単文で書くことで、自分の生活を振り返り、日常生活に目を向けさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して明日を迎えられること ・ 笑顔が絶えないこと ・ 家族や友だちが当たり前のように隣にいること 	
5分	5 本時の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のこれまでの知識や経験と照らし合わせて感想を書くよう指示する。

4 実践のまとめ

(1) 戦争当時の様子を知る

焼け跡に立つ虹の「つらい青春時代」の話を画像とあわせて提示し、読み聞かせた。当時の衣食住に関することや学校生活や空襲時の様子が書かれている。資料を読み終わった後、実際に空襲時に流れていた空襲警報音や爆発音を聞かせた。その音に生徒は、「耳に残って嫌な音だな」「不安をかきたてる音だな」「こんな音が夜中にも鳴り響いていたと考えると安心して寝てられない」という声があがった。また、戦争当時



【提示した戦争当時の食べ物】

【提示した資料画像】

の食べ物を提示したところ、「サツマイモが当時の主食だったなんて、今では考えられない」「すぐにお腹が減りそうだな」という声があがった。

(2) かたりべDVDを視聴する

広島に原子爆弾が投下された様子を語るシーンを生徒に見せた。一言も発することなく、生徒は見入っている様子であった。特に被爆した親友が亡くなる場面では、目を真っ赤にして聞いている生徒もいた。「皮膚が焼けただけ、目が見えない状態でさまよっているなんて、想像しただけでも吐きそうになる」「ウジ虫が体中に這っていても、払う気力すらないなんて悲惨過ぎる」といった感想をもっていた。



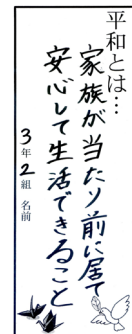
【かたりべDVDを見る生徒】

(3) 戦時中と現在の生活を比較する

資料やDVDで視聴した内容と現在の自分の生活について比べさせた。衣食住で比べる生徒や学校の違いを比べる生徒、医療の面で比べる生徒もいた。「戦争当時の配給だけでは、お腹いっぱい食べることができない」「今は家族が当たり前にいるけど、戦争当時は家族が当たり前にならなくなったんだね」という意見が出された。戦争当時と現在の生活を比べさせることで、よりいっそう当時の悲惨な生活状況を想像させることができた。現在がいかに物であふれ、恵まれているか考えることができた。

(4) 平和とは何かを単文で考える

最後に「平和とは何か」を考えさせた。戦時中と現在の生活を比較することを通して、多くの生徒が現在の当たり前の生活を「平和」と考えることができた。授業導入時に「幸せとは何か」という問いに対して、「両親から勉強しなさいとか、ご飯早く食べなさいとか言われず、家でごろごろしている時が一番幸せ」と答えた女子生徒Aは、「平和とは…家族が当たり前に住んで、安心して生活できること」と書いていた。生徒Aは今回の授業を通して、家に帰ると家族が迎えてくれること、家族と会話できること、一緒に生活できることが実は平和で幸せなことであると実感することができていた。



【女子生徒Aの平和とは...】

<p>今、学校で普通に勉強していることが普通にごはんがおかわりできていることが昔では、普通ではなくて今はたくさん知って自分達が幸せに生きているんだなと思いました。同じ日本人なのにしてほしかったです。</p>	<p>実際に体験した方の文は、内容がすごく細かくて、戦争後の惨状が目につきました。でも、私が想像したよりもはるかに悲惨なものだったと思います。TVでみた体験した方のお話は、皮膚が剥がれていたり、目が飛びだしていたのをきいてゾッとしました。今、過ごしている日常は当たり前なんかじゃなくて、ご飯も食べられて、安心して住める家があるのはとてつもなくありがたいことなんだなと思いました。</p>
---	---

【生徒の感想】

(5) 実践の成果と課題

今回の実践を終え、戦時中の画像や体験文に加え、かたりべの映像を流すことは戦時中の生活の様子を考える上で有効であることを感じた。感想の中に、「家族と仲良く生活をしていきたい」「好き嫌いなくご飯を全部食べるようにしたい」「毎日を大切にして、仲間を大切にしたい」と書いている生徒もいた。しかし、実際の生活となると、行動が変わっていない生徒も存在する。日々の生活の中で、行動を変えていくためには、継続的な働きかけが必要であると感じた。また、資料で使った、「焼け跡に立つ虹」と「かたりべDVD (2016年版)」は、資料としての価値が高く、両方とも生徒は、見入っていた。だからこそ、資料一つ一つに対しより考えることができるように2時間構想の単元を組んで授業を行うべきであった。

今後も、機会があるごとに平和実践を継続していきたい。